

かしわば

第10号

2006.4



1971年4月、開院当時



現在の当院

開院35周年を迎えて

～先端医療とアメニティの共存を目指して歩み続けます～

かしわばゼミナール

脳の活動の様子を教えてくれる「脳波」

おしらせ

脳梗塞治療薬の血栓溶解剤「tPA」で社会復帰が1.5倍に

食べて健康

納豆

開院35周年



当院のあゆみ

創成期 1970年～1979年

札幌の人口が100万人を突破し、全国8番目の百万人都市となった1970年、北大脳神経外科に13年在職していた柏葉武が、「地域医療に努力専心したい」と東月寒で開院準備を開始しました。19床の『柏葉脳神経外科医院』が開院したのは翌1971年4月19日。職員数10人でのスタートでした。

当時は、生活が豊かになった日本人の生活習慣病が増加。高齢化が進む中で、70歳以上の高齢者を中心に「脳梗塞」の粗死亡率が上昇し、脳血管疾患に対応する「地域の専門病院」が必要でした。

開院後、外来患者数や救急搬入患者数が増え続け、1975年には第2期工事で施設を拡張。60床を備えた『柏葉脳神経外科病院』になりました。

創造期 1980年～1989年

1980年5月、医療法人設立。翌年には施設増築のための第3期工事に着手し、1982年には161床に。

1984年には新型救急車を導入し、一刻を争う脳血管疾患に対応する医療体制をさらに強化。123人となった職員が一丸となって地域医療を支えました。同年には、日本脳神経外科学会認定医訓練施設(A229)の指定を受けています。1989年には、第4期工事を終えて別館が完成しました。

開院35周年を迎えて

～先端医療とアメニティの共存を目指して歩み続けます～



地域医療のニーズに 応えるために

理事長 柏葉武

1971年4月19日、地域医療に貢献でき得る脳神経外科病院を目指してスタートしました当院も35年を迎えました。この間、地域の皆様や連携医療機関の皆様を支えられ、急性期の脳外科専門病院として機能を充実させることができました。

これからは、さらに「心と身体のリハビリテーション病院」としての機能(ハード)と心(ソフト)を切磋琢磨し、地域社会と患者さんのニーズに相應得る病院を目指して、全職員が一丸となってファイトを燃やしております。

この35年間のご支援を衷心より感謝申し上げますとともに、今後ともより一層のご教導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

私たちの考えていること

病院の理念

私たちは、安全で安心いただける医療のサービスに徹し、患者さんの幸せを守ります。

病院の基本方針

- ・患者さんにとって、思いやりのある最善の医療に全力をつくします
- ・医師とスタッフによる説明と、患者さんの理解と選択に基づく医療を実践します
- ・患者さんの意志とプライバシーを尊重します
- ・医療従事者として、常に、豊かな人間性と技術の向上をめざします
- ・救命・救急医療から心と体のリハビリテーションまで、脳の総合病院をめざします
- ・地域医療機関との強力な連携をはかり、よりダイナミックな医療のサービスを提供します

患者さんの権利

- ・患者さんは、平等で、安全な医療を受ける権利があります
- ・自分の診療にかかわる人々の氏名と役割を知る権利があります
- ・自分の病気・治療・予後について知る権利があります
- ・治療について承諾・拒否する権利があります
- ・自分の診療について、他医師の意見(セカンドオピニオン)を得る権利があります
- ・自分のプライバシーを守る権利があります
- ・公的援助、地域サービスに関する情報を知る権利があります
- ・病院職員に対して、意見・苦情を伝える権利があります



2005年4月19日に、第5期工事の完成を記念して当院屋上で撮影

発展期 1990年～1999年

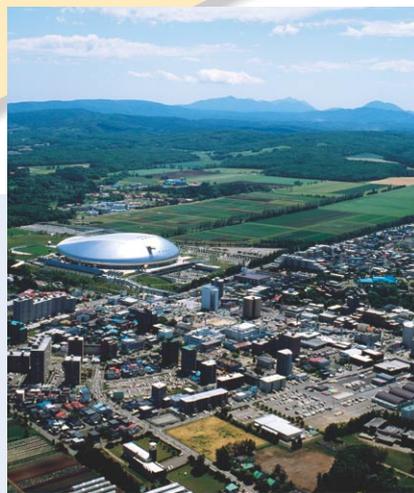
1991年、神経内科併設。1993年、理学診療科併設。1996年、精神保健科・麻酔科・放射線科を併設。1997年には、訪問看護ステーション「ふくずみ」を開設しました。1998年には、日本医療評価機構より『病院機能評価認定病院』の認定を受けました。

1999年には、『日本神経学会認定医教育関連施設』となり、社会と地域に貢献できる『脳の総合病院』を目指しました。

充 実期 2000年～現在

2000年、ケアプランセンター『かしわば』を開設。2002年には、オーダリングシステムを導入しました。2003年4月に金子貞男が院長に就任し、柏葉武が理事長に。同年、第5期工事による新館（A館）が完成しました。2004年には、特定医療法人に認定され、急・亜急性期病棟（A館）、リハビリテーション施設と回復期リハビリテーション病棟（B館）がオープン。『病院機能評価認定病院』の認定が更新され、「脳神経外科の高度専門医療を提供する地域の中核病院」として、ハードとソフトの両面を充実させました。2005年3月には第5期工事が完成。日本『脳卒中学会認定医師研修教育病院』の認定も受けました。救命救急医療を24時間提供する体制を整える一方で、患者さんの憩いの場『ハートフルルーム』を院内に開設し、ほほ笑む患者さんの姿がたえません。

現在、『脳の総合病院』として、293人の職員が144床を支え、更なる医療のレベルアップとアメニティーの向上を目指しながら、「質の高い医療の提供」に取り組んでいます。



地域に必要とされる病院を目指して 質の高い医療を提供しています



【現在の診療科目】脳神経外科・神経内科・精神保健科・麻酔科・放射線科・リハビリテーション科

【主な施設】

緊急治療室、集中治療室、手術室（バイオクリーン）、理学療法室、作業療法室、物理療法室、言語聴覚療法室、高気圧酸素治療室、MRI（磁気共鳴断層撮影装置 1.5テスラ・0.3テスラ）、ヘリカルCT（コンピュータ断層撮影装置）、DSA（脳血管撮影）、RI（SPECT）、エコー検査室、脳波・心電図室、ハートフルルーム

かしわば ゼミナール

第10回

脳の活動の様子を 教えてくれる「脳波」

さまざまな病気の診察・治療に役立っています

「脳波」は神経細胞の 電気信号を測定したもの

私たちが何かを考えた時、体を動かしたりできるのは、脳が活動しているからです。また、無意識のうちに行われている呼吸や、食べ物の消化など、すべて脳がコントロールしています。

脳は、たくさんの神経細胞が集まったもので、神経細胞同士が電気信号で連絡を取り合うことで、脳が活動しているのです。この電気信号を測定したものが「脳波」です。

脳波は、頭のあちこちに電極を付けて計測します。電極は小さな金属の円盤です。これに電極糊を塗って頭に貼り付けるので痛みはありません。また、髪の毛を切る必要はありません。

脳波は、頭のあちこちに電極を付けて計測します。電極は小さな金属の円盤です。これに電極糊を塗って頭に貼り付けるので痛みはありません。また、髪の毛を切る必要はありません。



脳に影響する 可能性のある病気を診断

脳波を調べて、病気の診断に利用しやすくなるのが「脳波検査」です。

脳に影響する可能性のある病気にかかると、通常と違う脳波のパターンが見られます。例えば、けいれん性障害、錯乱、頭部外傷、脳腫瘍などです。また、意識消失の期間や睡眠障害の有無を調べる場合にも、脳波検査が使われます。

ただし、脳波を調べるだけで、脳の病気のすべてが分かるわけではありません。診察やほかの検査の結果と合わせることで、より正しい診断ができるのです。

当院では、神経生理検査科が脳波検査を担当しています。国家資格を持つ臨床検査技師が検査を行います。脳神経外科、神経内科、精神保健科、リハビリテーション科の診察・治療などに役立っています。

当院では、神経生理検査科が脳波検査を担当しています。国家資格を持つ臨床検査技師が検査を行います。脳神経外科、神経内科、精神保健科、リハビリテーション科の診察・治療などに役立っています。

NEWS おしらせ

脳梗塞治療薬の血栓溶解剤「tPA」で、社会復帰が1・5倍に

「脳梗塞の発症後、早期に投与すれば約4割の患者さんが後遺症なく社会復帰できる」とされる、血栓溶解剤「tPA」が保険適用となりました。

「tPA」は脳梗塞の原因となる血管に詰まった血の塊（血栓）を溶かす効果のある治療薬で、発症から3時間以内の投与が有効です。

半身麻痺、めまいやろれつが回らないなど、脳梗塞の症状が出たら、一刻も早く救急車を呼び、診療を受けることが大切です。

当院では救急車専用通路を設置しておりますので、救急処置室へ直接乗り入れることができます。24時間体制で専任のスタッフが待機し、迅速に的確な診断・治療を行っていますので、安心してお任せください。



ナットウキナーゼで血液サラサラ

夕食に納豆メニューを

倉敷芸術科学大学教授の須見洋行医学博士が、1980年代に米国シカゴ・マイケルリス研究所で発見したナットウキナーゼは、納豆に含まれる血栓溶解酵素。血液をサラサラの良い状態に保つことは有名です。夕食時に食べると効果的です。血管をきれにするリノール酸もナットウキナーゼには、制ガン作用や強壮効果もあり、血管をキレイにしてくれる、リノール酸も豊富です。

月日の経つのは早いもので、気が付けば2006年も桜の開花情報に耳を傾ける季節となりました。この時期一番眼につくのは、やはり入学・入社を迎えたばかりのフレッシュマンで、当院でも19名の新入職員を迎えました。夢と希

編集後記

望に眼を輝かせ、先輩の一挙手一投足に食い入る姿は何時見ても良いもので、見ているこちららも自然と身が引き締まる思いになります。春の陽気に誘われてつい薄着になりがちですが、健康管理には十分ご留意ください。（小川）